

テンプレート研究会

ニューズレター

Vol. 03

2020年

参加費
無料

フォローアップセミナーin大阪開催決定！！



zoomによるオンラインライブ同時配信

コロナウィルスの影響で延期になっていた『フォローアップセミナー』の大阪開催が決定しました。今回は遠方の先生も参加しやすいようにZOOMを利用し、ライブで同時配信します。パソコンやスマホなどインターネットが繋がる環境であれば簡単に参加できます。パソコンやスマホの操作に不安のある先生も事前に練習をしますので安心してご参加いただけます。

内容はテンプレートの最新情報から理事・会員の症例発表、理事の先生の専門分野の講演など参考になる情報が満載です。お時間のある先生は、ぜひご参加ください。詳細は同封のセミナーチラシをご確認ください。

日時:2020年8月29日(土) 19:00~21:00 場所:大阪府 前原歯科のりこクリニック 研修室

理事通信

『インフルエンザ菌はインフルエンザ原因菌ではない？』

専務理事 高山史年

インフルエンザ菌をご存知の方も多いと思いますが、インフルエンザの病原菌ではありません。インフルエンザ菌とはパスツレラ科ヘモフィルス属のグラム陰性短桿菌で、主に呼吸器や中耳に感染する細菌の1種なのです。しかし歴史的な理由によりインフルエンザという名称が付けられているのです。1890年代のインフルエンザの大流行の際に、原因菌として分離されたのがこのインフルエンザ菌でありそのままこの名称が付けられてしまったのです。本当はウイルスなのですが、インフルエンザに引き続いて二次的感染を起こすことがあるので間違えたのでしょう。もう少し詳しく説明しますと1892年に当時インフルエンザの病原菌として純粋培養に成功と報告されました。運悪くその後コロナより被害の大きな世界的なパンデミックに陥った1918年にスペイン風邪*が流行しました。これに対して先述のインフルエンザ菌を使い日本でこの菌でワクチンを製造し、およそ500万人が接種しましたが、もちろんウイルスが原因のスペイン風邪には効果がまったく無かったとのことです。尚、その後インフルエンザのウイルス説が研究され、1933年にインフルエンザウイルスの培養が成功しウイルス説が広く認められ、同時に細菌説は完全に否定されました。因みに、インフルエンザ菌は、初めて全ゲノム配列が明らかとなった生物と言われています。もちろんこの菌は抗生物質で阻害することができます。こんな経緯で間違えて名付けられたインフルエンザ菌は北里柴三郎らが発見したこともあり名前も変えられず？現代に至っています。

*スペイン風邪も本当は中国かアメリカが発祥地といわれており戦争中のこともあり中立国であったスペインが報道したことが原因でスペイン風邪と言われてしまってます。

理事通信

「開口のすすめ」

理事 牛久保順一

牛久保先生の最新刊！！

矯正歯科専門医が「かいこう」と聞いた時、最初に思い浮かべるのは「開咬」つまりオープンバイトのことで、多くの症例は舌突出癖を治す事で改善出来ています。また、この頃は小さなお子さんをお持ちの保護者の方の間では普段お口を開けっぱなしにしている「開口」を心配されて、乳幼児歯科検診等でもよく相談を受けています。その様な方々に、開口する事(口腔周囲筋の緊張を取る事)の重要性を解って頂こうと、私がテンプレート療法を学ぶきっかけとなった症例を、一般の方にも解り易く解説しこの本に書いています。先生方にとっては物足りない内容に思われる事は充分承知していますが、編集者とのせめぎ合いで簡略な表現になってしまいました。出来次第お送りしますのでお読み頂いてご批判頂ければと思っております。テンプレートを装着した写真も載せています。出版物の写真はモノクロですが、原本はこのカラー写真です。

『大切なのは咬み合わせ
矯正歯科がわかる本』
出版社:現代書林
販売価格:1,980円(税込)
発売日:8月22日予定

